

日本語教師教育者のための 50項目指導法研修セミナー

日本語教育史・著作権

日本語教師養成で教えるべき必須の教育内容50項目には、多岐にわたる専門的な項目が含まれており、日本語教師教育者の知識をアップデートしていくことや教えるポイントを把握することが難しいものもあります。今回はそのような項目の中から「日本語教育史」「著作権」を取り上げていきます。



日時 2026年3月1日(日) 13:30～16:40

会場 ヒルトンプラザウェスト 8階会議室A・B

参加費 無料 **対象** 日本語教師教育に関わる教員及び関係者、その他内容に関心のある方

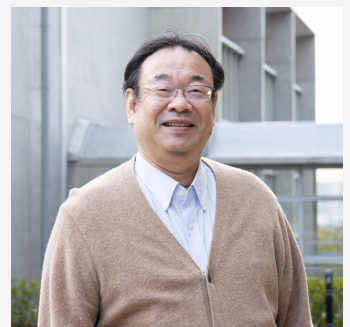


13:30～15:00 日本語教育史・上田崇仁先生(南山大学教授)

「日本語教育史を100倍面白くするウラ知識」

【セミナー概要】日本語教育史の授業を人の名前と年代と事項を覚えるもの、と考えてしまうと、当時、そこで生きていた人たちのことが見えてこなくなります。言葉は人が使うもの。その言葉の変化は社会の変化を示しています。丸暗記するのではなく、その背景に何があったのかを指導する側が知っていると話す内容に膨らみが出てきます。私が史料を見て面白いと思い、考えたことなどを中心にお話しします。

【講師紹介】山口県出身。県立広島女子大学、徳島大学、愛知教育大学を経て現職。専門は日本語教育史、植民地支配されていた朝鮮半島での学校教育、ラジオ放送を利用した「国語」教育、現地で発行されていた新聞に連載された「国語」学習用の講座に関心を持つ。



15:10～16:40 著作権・笠井陽介先生(国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員)

「日本語教師と著作権―著作権に配慮できる日本語教師の育成を目指して」

【セミナー概要】はじめに、文化庁の『著作権テキスト』(令和7年度版)などを参考に、著作権法の考え方について確認します。続いて、日本語教師が実際に遭遇する事例を取り上げ、著作権侵害をしないためのポイントについて考えます。最後に、著作権教育に活用できるリソースについてご紹介します。

【講師紹介】2015年より国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員として勤務。日本語学習プラットフォーム「JFにほんごeラーニング みなと」内のオンラインコース制作、「いろいろ日本語オンラインコース」制作など、eラーニング教材開発業務を担当。2016年にサーティファイ著作権検定委員会主催「ビジネス著作権検定®」上級に合格。

